

今後の津波浸水想定を進め方

1. 北海道に津波被害をもたらす想定地震の再検討ワーキンググループ（津波WG）の解散について

- 津波WGは、東日本大震災を受け、「想定地震見直しに係る検討報告書」（H23.3）をもとに、津波被害をもたらす想定地震の再検討と、津波浸水想定（予測図）の点検・見直しを目的に、平成23年6月に設置。
- 津波WGでは、全道を3海域に分け、各海域毎に津波堆積物の調査結果に基づく見直しを順次行うこととした。

海 域	当初作成	点検・見直し状況		新たな想定（予測図） 見直し作成状況
		新たな堆積物	見直し 要否	
太平洋	H18	あり	要	H24.6 公表
オホーツク海	H22	なし	否	—
日本海	H21	あり	要	H29.2 公表(※)

↑ 太線内：現ワーキングでの検討項目

〔※この度作成した日本海の浸水想定は、「津波防災地域づくりに関する法律」第8条に定める津波浸水想定要件も具備。〕

- 上記のとおり、全海域における津波堆積物に基づく点検・見直しが終了したことから、一区切りとして、本日をもって解散とする。

2. 今後の津波浸水想定の見直しについて

- 現在、「津波防災地域づくりに関する法律」に基づく新たな津波浸水想定の見直しが求められており、これまでの見直しの中で、日本海については完了しているが、太平洋及びオホーツク海については、新たな見直しが必要。
- このため、現在、国（日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会）において検討している断層モデル等が公表され次第、地震専門委員会に新たにワーキンググループを設置し、検討を進めていく。